

# 古い文化と大自然、新しい産業が支えあう地域



## ●東漸院

「阿日山法袋寺東漸院」と称する、真言宗豊山派のお寺です。創建が500年頃で、市内で最も古い寺院であるといわれています。このお寺の山門は市の指定文化財になっています。

## ●旧下妻街道

天喜年間(1053~1058)に陸奥国で反乱を企てた安部頼時を源頼義、義家父子が討伐する際、陸奥への大道として使用されたそうです。鎌倉時代には、鎌倉と常陸・陸奥各地を結ぶ主要道となり、下妻街道と呼ばれました。



## ●豊田三郎

草加市柿木町出身の作家で、ふるさとの中川河畔を舞台とした小説も書いています。作品は、草加市立中央図書館で読むことができます。柿木の女体神社には、市内の文学愛好者が中心となって建てられた豊田三郎文学碑があります。なお、『天国にいちばん近い島』の作者である森村桂は、豊田三郎の長女です。

## ●女体神社

北向きへ建つ珍しい神社で、境内には郷土出身の作家である豊田三郎の文学碑があります。天正3年(1575)に茨城県石下町にあった豊田城が陥ち、城主の夫人と子どもたちがこの地に移り住んで、開拓の祖となったといわれています。その豊田氏が筑波の女体神社を信仰していたので、柿木の女体神社は筑波に向けて建てられたと伝わっています。